

Fishing Boat Impression

リサイクル可能な 北欧のスマールボート

■TERHI (テルヒ) 415NOVA・385

今年のボートショーで日本に紹介された、フィンランドの名門ボートメーカー「TERHI (テルヒ)」は、ヨーロッパでは14万隻を販売した実績を持つ。ABS樹脂という、リサイクル可能な材質を使用していることが大きな特徴で、これからさらに注目を浴びることになるだろう。しかし、我々がまず気になるのは釣りに向いているかどうか。さっそくタックルを積んで、少し荒れ気味の相模湾に浮かべてみた。

■写真/丸山 剛
■レポート/編集部
■協力/ヨットイングワールド(株)

軽快な走りが楽しめるフィッシングテンダー

■TERHI 415NOVA



テンダーと呼ぶには惜しいほど、小気味よい走行性能を持つ415NOVA。波をていねいに処理していけば、ラフウォーターでもけっこう楽しく走れる

全長	415cm
全幅	175cm
艇体重量	210kg
定員	4人
最大馬力	25馬力
艇体価格	78万5000円

問合せ
ヨットイングワールド(株)
☎0559・78・1477
〒419-0107
静岡県田方郡函南町平井1594-10

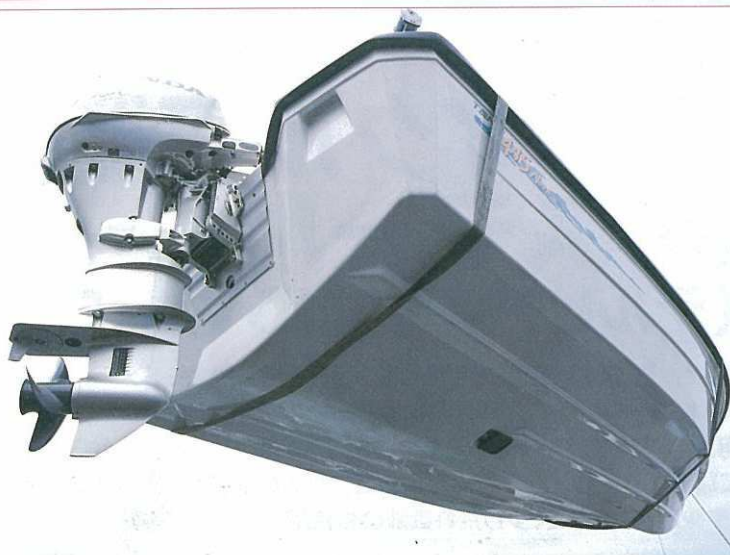


荷物や人を運ぶための広いスペースや収納は、釣り人にとっても実にありがたい

フィンランド生まれの415NOVAを最初に見た時、正直なところとまどってしまった。親近感がわく小型ボートながら、和船ベースのフィッシングボートとは明らかに趣を異にする。似たようなレイアウトのモデルを国産で捜せば、17フィート以上になる。4.15m、約13.5フィートクラスというと、やはり和船タイプのボートがほとんどだ。いったいどんな目的で使ったらいいのだろうか。

実はこの415NOVA、純粋なフィッシングボートではない。地元ヨーロッパでは主に、沖に錨泊したボートやヨットに人や荷物を運ぶためのテンダー(足舟)と分類されているようだ。

テルヒ・ボート最大の特徴は、一般的なFRPではなく、ABS樹脂を素材に使っていること。



しっかりしたチェーンと左右に2本ずつ入ったストリップが、走行性能や安定性を重視していることを物語る。25馬力4ストロークエンジンとのマッチングもいい



中央のベンチシートは物入れになっている。フタが互い違いに開くので、前後に分かれた釣り人の荷物を分けて入れると便利

ABS樹脂は熱可塑性材の一種で、衝撃に強く、修繕が非常に簡単という特性を持つ。ほんのわずかだが透明感があり、肌触りも柔らかい。紫外線による劣化も少ない。そして、何よりサイクル可能ということが、これからテレビ・ボートが目される、大きな要因になるはずだ。

そのABS樹脂で一体成形されたハルのデザインは、このクラスのボートにしてはかなり工夫されている。明確なチェーンに、左右2本ずつ入ったストリップ。そのうち、内側のストリップは真ん中あたりで切れていて、外側はトランサム付近までとおっているという凝りようだ。

走行時には白波が立つくらい南風が吹き、ウネリも入っていた。そのため、向かい風ではスロットルを全開にはできない。しかし、4.15mというサイズのわりに不安感はほとんどなく、むしろ25馬力の4ストロークエンジンで小気味よく波を越えていく凌波性に、驚きを感じるほどだった。

追い風では軽快そのもの。プレーニングしながら追い波に乗っても、ブローチングしないように舵を当てながら走れば、ボートの小ささも手伝って、この上ない爽快感を味わうことができる。安全面もかなり配慮されており、不沈構造は欧米で正式に認可されているもの。そういったことからくる安心感も大きいのだろう。



操舵席周りはいたってシンプルだが、ステアリングの上には魚探などを置けるだけのスペースがある



バウのクッション下にはアンカーを収納するスペースがある。左側のパウレールはとても頼りになるし、この場所に座って右側にサオをだせるのがいい



このタイプのボートは、座って操船しながら流し釣りをしやすいのが特徴。手軽さと機動性は大きな魅力だ



操舵席のシートを開けると、燃料タンクやバッテリーを収めるスペースがある

トレーラーで運搬するもよし、マリーナ保管もよし。すぐ目の前がポイントで、それほど大きなボートは必要ないけれどカッコいいボートがほしい。操船する楽しさも兼ね備えた415NOVAは、そんな人にうってつけのsmallボートといえるだろう。

フィッシングボートとしてのポテンシャルを引き出す

このボート本来の役割であるテンドーに求められるのは、人や荷物を運ぶための広いスペースと、高い安全性である。これは、そのまま小型フィッシングボートにピッタリあてはまるといってもよいだろう。つまり、テンドーとしての完成度が高いテレビ415NOVAは、フィッシングボートの基本的な資質も備えているのである。

操船は座って行なうのが基本になる。このタイプのボートには、自分で操船しながらサオをだすことによって、思いどおりに流し釣りができるメリットがある。シロギス釣りやカワハギ釣りなど、手軽なタックルで沿岸近くをねらう釣りなら、とても快適に楽しめるはずだ。

さらに、このモデルはスペースが広く、定員の4名が余裕をもってサオをだせる。中央のベンチシート下は大きな物入れになっているので、デッキ上に荷物が散乱してしまうこともない。

また、バウの先端右側とトランサム右側の右側に、バッテリーのコネクターがある。後部シートの下に置かれたバッテリーからコードがひかれており、バウでもトランサムでも12Vの電源が取れるのだ。その際に使用するバッテリーは、もちろんメインとは別に用意する。こうした造りは本格的なフィッシングボートにさえあまり見られないが、魚探や電動リールを使用する場合には非常に便利である。日本のメーカーもぜひ取り入れてほしいシステムだ。

両舷の船べりには、ハンドレールがとおっている。このままではロッドホルダーなどは付けられないが、レールに取り付けるための専用の台座などを利用すれば、かえって船体に穴を開けることなく艀装できる。

ひとつ残念なのは、そもそもテンドーとして設計されているために、イケスがないことである。イケスがあるとないとは、フィッシングボートとしての評価が大きく変わってしまう。しかし、このボートなら広いスペースを利用し、クーラーやバケツにエアポンプを入れて対応することもできるだろう。

船体のわりに搭載馬力は25馬力と大きいのが、沖に出て無理をするのではなく、比較的静かなエリアで内容の濃い釣りをスタイリッシュに楽しむ。そういったゆとりが、このボートに乗っていると生まれてくる。